

第 29 回日本高齢者大会 in 和歌山のまとめ

2015.12.15

第 29 回日本高齢者大会 in 和歌山中央実行委員会

はじめに…大会後の情勢

1) 安倍自公政権の暴走政治が続いています。

① 戦争法案強行採決と国民連合政府の呼びかけ

大会では、空前の規模で広がった国民の反対運動と、「今国会での成立に反対」という6割を超す国民の世論に背いて憲法違反の戦争法(安保法制)を強行しようとしていた安倍自公政権に対して、大会参加者の総意で怒りを込めた抗議決議を行いました。しかし、戦争法は、大会直後の19日参議院で強行採決されました。

大会決議で確認したように、その後全国各地で高齢者が多くの国民とともに戦争法廃止に向けた運動に立ち上がっています。

また野党による新しい呼びかけが行われました。19日に日本共産党の志位委員長は、「憲法違反の戦争法を廃止するためには、衆議院と参議院の選挙で、廃止に賛成する政治勢力が多数を占め、国会で廃止の議決を行うことが不可欠」であり、また「2014年7月1日の安倍政権による集団的自衛権行使容認の『閣議決定』を撤回することが必要」として、「戦争法廃止、立憲主義を取り戻す」の一点で一致するすべての政党・団体・個人が共同する「戦争法(安保法制)廃止の国民連合政府」の樹立を呼びかけました。野党間で様々な論議や動きが始まっています。

日本高齢者運動連絡会と第29回高齢者大会中央実行委員会は、事務局長の連名でその呼びかけを歓迎する談話を発表しました。

② 臨時国会を開かず、TPP など重要な課題の国会審議を拒否

憲法53条は、内閣が召集しない場合でも衆参両院議員のいずれか4分の1以上の要求があれば、臨時会を開くことを定めています。

強権的に戦争法を成立させた安倍政権と与党は、戦争法への国民の批判をそらそうと内閣改造を行い、政策の“目玉”として「1億総活躍」を打ち出しました。その中身について臨時国会を開催して、首相の所信表明演説や新しく就任した閣僚の所信聴取で中身を明らかにすることは内閣の当然の責任です。

また、秘密交渉で合意された環太平洋連携協定(TPP)の中身についても説明責任を果たすべきです。

さらに、沖縄県の翁長雄志知事が埋め立て承認を取り消した名護市辺野古の米軍新基地建設問題も国民の関心事で論議が求められています。

これらの重要な課題があるにもかかわらず、政府・与党は憲法の趣旨を無視して国会召集を行っていません。

③ マイナンバー制度の施行と危険性

社会保障や税の情報を国が一括管理するマイナンバー制度が始まりました。10月から住民票をもつ全員にマイナンバー(12桁の数字)を知らせる「通知カード」を、市区町村を通じて郵送し、来年1月からは年金確認などの手続きでマイナンバーを使用することを要求し、希望者には顔写真やICチップが入った「個人番号カード」を交付する予定です。しかし、多くの国民は制度を知らないうえ、膨大な個人情報をも国が一手に握ることへの懸念、情報漏れの不安が広がっています。

特に高齢者は、国の説明不足や作業遅れのため制度を理解できず、大混乱することが懸念されて

います。

④ 「一億総活躍」と新しい三本の矢の問題

安倍政権は、9月の記者会見で「1億総活躍社会」と新しい三本の矢を打ち出しました。

- ①希望を生み出す強い経済（GDP600兆円を目指す）
- ②夢をつぐむ子育て支援（希望出生率1.8）
- ③安心につながる社会保障（介護離職ゼロの実現）

「1億総活躍社会」の具体化のために設置された「国民会議」の初会合で首相は、人口減が「国力衰退」に結びつくと述べました。“たくさん産んで国家に貢献”と発言した菅官房長官と同じように、戦前戦中の「産めよ、殖やせよ」の発想です。

異常な円安と物価上昇、大企業減税と消費税増税、雇用の規制緩和などで日本経済と国民のくらしを破壊した「成長戦略」の総括もなく、新たな「三本の矢」を言うのは無責任です。特に「GDP 600兆円」目標は、3年間5%以上の高い成長率に設定するという無謀なものです。

出生率「1.8」の回復や「介護離職ゼロ」などの目標も実現の保証はありません。

2) 社会保障解体のプログラムが進行しています。

① 財務省の社会保障の改革工程表

財務省は10月9日、財政制度等審議会(財務相の諮問機関)の財政制度分科会に、社会保障の改革工程を提出しました。6月に閣議決定された「骨太の方針2015」にある64項目について改革の方向性や必要な法案提出の時期が示されています。

医療費の抑制では、かかりつけ医以外を受診した場合に、2017年の通常国会に定額負担導入の法案を提出することなどが示されています。

また介護分野では、介護保険の自己負担を原則2割化すること、訪問介護サービスのうち、全体の約4割を占める掃除や食事の用意などの「生活援助」や福祉用具貸与を原則として自己負担することとしています。

② 地域総合事業・地域包括ケア

今年4月導入された「介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)」は、10月1日時点で、全1,579保険者のうち、966保険者(61.2%)が準備期間の最終年度の2017年の4月に事業実施を計画していることが判明しました。来年度中に実施を予定しているのは319保険者で20.2%、また、今年度中に実施を予定しているのは202保険者で、たったの12.8%でした。まだ多くの自治体で人員や事業者確保、事業的計画が立たないために事業計画ができていない状況です。

介護保険からはずされた訪問介護デイサービスはもとより、地域包括ケアシステムも地域のサービスの提供体制が整わず、介護保険を払っても介護保険を利用できない可能性があります。

1. 第29回大会の評価

今大会は、安倍政権が戦争法参議院で強行採決を狙い、日本の未来を左右する歴史的岐路という重大で緊迫した情勢のもと、戦争反対の国民運動高揚の中で開催されました。

大会は、今日の情勢にふさわしい豊かな内容で参加者と高齢期運動を元気にし、参加者にも「初めて参加したが生涯忘れることができない大会だった」(感想文)と感動を与えるものにすることができました。参加者数でも、目標5000人を越え大きく成功しました。

また、企画や運営・参加者数でも和歌山県実行委員会の大奮闘で成功させることができました。和歌山県実行委員会は、県内8地域連絡会に依拠した活動がされ、参加組織や財政活動にとりくみました。各地域の連絡会活動を積み上げてきた成果であり全国の運動の教訓となりました。

さらに和歌山県内自治体 19 市町村(全体は 39 市町村)と 1 市 2 町の老人クラブ連合会、和歌山県生活協同組合連合会の後援を受けました。マスコミ関係は、NHK はじめ 6 社の後援を得ました。

今大会の特別な意義は、「協力・協同を広げる高齢期運動地域連絡会づくり」の分科会を初めて設け、日本高齢者運動連絡会から問題提起と 5 県(和歌山・福島・東京・三重・山口)の活動報告をもとに活動交流ができたことです。

そして今後の長寿社会の中で、多くの団体や人々とまちづくりにとりくむため高齢期運動が地域に「地域連絡会」をつくることを目標にすることを確認できたことは大きな成果です。

- ①企画内容は、今日の情勢や高齢期の課題等を学ぶにふさわしい内容で、全国の経験が交流でき、地域の活動に役立つことができるものでした。
また、全体会で「戦争あかん」「9 条守れ」と戦争法反対の意思表示をしました。
- ②大会参加規模では、各県や地域の積極的なとりくみで、参加者 5100 人と目標を達成することができました。
- ③また近畿ブロック(兵庫・大阪・滋賀・京都・奈良)会議で大会成功させることを確認し、司会等の要員を分担しました。ブロック参加者数は、全体の 55%となり大会成功への大きな力となりました。
- ④大会の決算では、予算を超える参加費収入、会場カンパ、和歌山県と和歌山市の補助金などで剰余を出し、運動を継続する財政的保障をつくることができました。
- ⑤同時に、今後の大会運営について改善課題も明らかにすることができました。

2.とりくみの経過と第 29 回大会の概要

1)とりくみの経過

中央実行委員会として、2014 年 5 月に和歌山県高連に大会開催要請し、7 月和歌山県が開催を決定。12 月 5 日県実行委員会結成(8 地域連絡会と 14 団体)し大会準備にとりくみました。

2)大会の概要

テーマ「戦後 70 年憲法をいかし 格差のない 公正な社会を」
=まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう=

①参加者数 延べ 5113 人(実行委員・講師助言者・出演者・要員等を含む)

1日目(15日) 午後講座・分科会 参加 2308 人

夜学習交流会等 参加 606 人

2日目(16日) 全体会 参加 2472 人

カンパ 787,873 円

※参加者感想文 366 通 ★1 割相当分抜粋 感想文集・別冊

②企画 会場 和歌山大学、和歌山県民文化会館

学習講座 7 教室(14 講座) 分科会 17 移動分科会 4

夜基礎講座 1 和歌山学 3 交流 2 (計 41 企画)

全体会 歓迎 海南民商太鼓「響」

司会 出野孝道(日本医療福祉生活協同組合連合会)、

中谷弘子(和歌山県実行委員会・県新婦人の会)

主催者挨拶 歓迎挨拶 中谷吉治(和歌山県実行委員長)

藤末衛(中央実行委員長)代読岸本啓介

来賓挨拶 宮本 岳志(衆議院議員)

臨席 山口一秀(中央社保協事務局長)

宇佐川彰男(太地町教育委員会教育長)

上田欣司郎(和歌山県生協連会長理事)
基調報告 鐘ヶ江正志(中央実行委員会事務局長)
講演 テーマ「戦後 70 年日本の未来へのメッセージ」
立命館大学名誉教授 安齋郁郎
カンパの訴え 多田重正 (民医連)
冒頭 じいじばあばせんべいの歌(中尾冴貴・心暖さん)
地域報告 (福島県・伊藤洋、沖縄県・名嘉座安子)
文化行事 創作「田んぼ」(りら創造芸術高等専修学校
※16 年 4 月から高校に)
年金者組合のフラダンス・地元と東京の合同合唱
特別決議提案 山元美奈子(新婦人中央)
大会旗引継ぎ、東京へ 挨拶 金子民夫 (東京実行委員会副委員長)
まとめと閉会挨拶 大森米三郎(和歌山県実行委員会副委員長)

③マスコミ取材(把握できた分) 毎日新聞、しんぶん赤旗

④実行委員会の大会ニュース発 12 号発行

県実行委員会広報委員会が取材と編集印刷発行

3) 大会準備

ポスター4000 枚(5 月完成)、リーフレット 10 万部(5 月発行)

参加のしおり 4500 冊(6 月末発行) 参加ワッペン 2 種(初日・2日目用)

参加者用 大会資料 3300 袋(和歌山県コンベンションビューロー提供の袋利用)

講座・分科会資料 講師・助言者レジメ・資料 会場定員の 1.3 倍印刷

会場の印刷体制 ニュース発行のため(大学の機器利用)

大会ニュース印刷 和歌山県広報委員会が編集・印刷

会場外案内看板等 会場外の案内看板・プラカード

会場ごとの掲示物(講座名・受付・司会等表示) 全体会場 座席表・和歌山県

3.個別課題について …感想・意見など

1) 講座・分科会等について

①今日の情勢の中心課題を深めるテーマの講座、高齢者の関心あるテーマの分科会、和歌山の歴史や文化をテーマにした移動分科会、夜の講座・和歌山学など大変内容豊かな企画でした。講師や助言者も各分野の研究者や専門家など多彩な陣容で構成することができました。

夜の交流会は、14 歳 31 種の利き酒、うたごえは、オールスターズの伴奏とリードで「いつまでも終わってほしくない時間」(ニュース)となりました。

初めて 高齢期運動地域連絡会づくりの分科会をもち各地の交流をしました。

②会場設営や運営について

会場は、校舎が分散して混雑は少なかった

分科会で 4 つの会場で定員を超えた、会場に入れずないところもありました。

一方定員数に比して極端に少ない、講座・分科会もありました。

参加者の関心ごとを予測した会場設定が必要

2) 全体会について

①開会式は、歓迎の太鼓演奏の後、実行委員からの挨拶、来賓の臨席、挨拶は一人にしました。

- ②講演、時宜にあった内容で大好評でした
- ③歓迎太鼓に続く、文化行事はかつてない多彩な内容でした。また若い人の参加に絶賛の感想が多く寄せられました。
- ④閉会時間が15分遅れ、終了前に参加者がバス出発時間のため退場せざるを得なかった。今後発言者の時間厳守や運営の改善が課題です。
- ⑤会場は、大ホールと小ホール(テレビ中継)を利用しました。

3) 本部体制と要員体制等

- ①本部は、中央と現地実行委員会で構成し、本部詰めと受付等の配置を行った。
- ②要員は、現地がほとんどを担い駅やバス停、道案内、道端での歓迎、会場案内、バス誘導など大奮闘した。
- ③医療班として、和歌山医療生協から看護師が配置され急病等(3人)に対応した。
- ④バス利用への対応
事前アンケートに基づき、現地で個々に連絡を取り対応した。
大学の立地など駐車場が離れていたため、会場から移動車を配置した。
駐車場で到着の誘導に不十分な点があり、今後の改善課題。
- ⑤参加申し込みと参加人数の把握
今回、事前アンケートで参加者数、宿泊、バス利用、各駅到着時間等を取りリーフレットやしおりの送付に役立った。
大きい県の参加者数の把握が課題
- ⑥受け付け体制
和歌山県・近畿ブロックが独自の受付体制をつくった。
講師・助言者の受付、司会等三役の受付をつくり状況把握でき必要な対応ができよかった。
講師等への謝礼の渡し方は、さらに検討が必要。
講師・司会等が時間に遅れ混乱した。

4) 前回(富山大会)の教訓から改善したこと

改善課題から

- ①参加申込書・講座・分科会参加人数記入欄を廃止し、新しい様式とする。
★参加記入欄は、県で必要との意見があり残した。中央への申し込みに必要なことを明記
- ②参加者が記入する「参加票」は廃止する。参加者数は、受付で把握する。
★参加票の廃止で受付時の混乱はなくなり、参加者数は三役で把握した。
- ③補助金申請に必要な名簿については、各県から提出してもらう。
★今回は、個人名簿が必要なく、宿泊証明のみとなった
- ④分科会の「申し合わせ事項」は、分科会の司会・運営マニュアルから削除する
★マニュアルから削除した
- ⑤移動分科会の受付について、12時55分に受付に到着していない場合はキャンセル扱いとする。事前の案内書に明記する。
★リーフレットに12時50分と明記した。
★今回、交通渋滞のため遅れ乗れなかった人が若干でた
- ⑥リーフレットに講師・助言者の肩書を入れたほうがわかりやすい
★肩書を入れた
- ⑦リーフレットとしおりの配布・参加目標数と前年実績を勘案し各県や団体に送る
★事前アンケートを実施し、それに基づき送付した。アンケートの来ないところは前年実績を勘案し送付し

た。

リーフレットとしおりの区別がわからず大量のしおり注文があり増刷したが・・・

(和歌山県実行委員会の提案から対応したこと)

- ①参加のしおりを A4 サイズにした。
- ②現地実行委員会が、大会速報とし特別体制をつくり編集・印刷し 12 号まで発行した。ニュースの配布は、ニュースのファイルを作成し初日の資料袋に入れた。また会場内にニュース置き場をつくったり、手渡しなど特別な配布体制をとった。

(和歌山県実行委員会から今後への提起)

- ①会場の円滑な案内をするため案内要員の体制を充実させる
- ②講座や分科会会場の終了後の後片付けを徹底すること。※三役の役割
- ③各県の財政活動として、「じいじばあば」煎餅(型を作成)を活用してほしい。
※メーカーと直接取引にし、一袋 250 円を予定

4.改善課題を来年度大会へ生かしていくとりにくみについて

- ①出された教訓や課題について、中央と東京実行委員会とで早めに検討し対応していきます。
- ②中央として、大会運営の基本的な事項について運営マニュアルを改善し、中央と現地の連携で改善に努めていきます。
- ③中央としてホームページをリニューアルし、大会情報発信とともに参加申込書など高齢者大会に係る書類などダウンロードできるようにします。
- ④各県の高齢期運動連絡会の取組の状況を、「日本高齢期運動連絡会ニュース」で報告交流し大会成功と地域の運動発展に向けていきます。
各県の活動を Fax やメールで提供をお願いします。

以 上